

神奈川県鎌倉市の観光政策の現状と課題について

— 交通問題の観点から —

観光政策
推進組織交通問題
鎌倉市

協働

正会員 ○ 嶋村 豊一*
正会員 上山 肇 **

1. はじめに

近年、日本の成長戦略の柱である観光立国の推進により、都市部の観光地では訪日外国人旅行者(以下インバウンドという)の増加により、受入の許容限度を超える観光拠点も出ており、様々なまちづくりの課題が明らかになってきている。

一方、観光まちづくりを推進する自治体においては、人口減少や少子高齢社会の到来により、観光政策が自治体の発展と住民の生活向上に重要な役割を担う時代を迎えた。

鎌倉市の観光政策においては、住民の良好な生活環境の維持と自然環境の保全はまちづくりの根幹であり、同時に、観光振興及び地域振興との両立が観光まちづくりの課題として重要となってきた。

本稿では鎌倉市における観光政策について、主に文献調査から、鎌倉市が抱える交通問題を中心とした課題に対する解決方法について、市民との協働の観点から現状を明らかにするとともに今後の方策について考察するものである。

2. 鎌倉市の観光政策の現状

鎌倉市は神奈川県南東部に、また三浦半島の北部に当たり、市域面積は39.53km²で、風致に富む緑豊かな丘陵と相模湾を望む美しい海岸線を有している。人口は172,129人、73,705世帯(2018年1月現在)で、都心から鉄道で約1時間の交通利便性が高い都市である。国の観光立国の推進からインバウンドの来訪も増え、近年は年間2,000万人を超える延べ入込観光客数となっている。

また同市は、1996年に策定された第3次鎌倉市総合計画の将来都市像の「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」を目指したまちづくりを進めてきた。行政計画としては、1996年に第1期鎌倉市観光基本計画が総合計画の分野別計画として策定された。以降、現在の第3期計画(2016年3月策定)まで、「住んでよかった、訪れてよかった」を基本理念として観光政策を進めている。

そもそも鎌倉市は観光都市であり、歴史・文化都市、住宅・生活都市、自然環境都市の多様性を有した都市として発展してきた。現在の計画では、これまでの基本理念を継承しながら「成熟した観光都市」をめざした観光まちづくりを進めるとしている(表1)。

また、第1期計画で示された「鎌倉市の観光の特徴」(表2)の7項目は、世界遺産登録の推薦の取り下げや日本遺産認定の取り組みなどの経過はあったものの今日まで変わっていない。

表1 鎌倉市の観光政策の取り組み

年代	鎌倉市
1990-	○「古都鎌倉の寺院神社ほか」ユネスコ世界遺産委員会の暫定リストに掲載(92.9) ○第3次鎌倉市総合計画策定(96.4) 1996~2025年度までの30年間計画。将来都市像:「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」 ○第1期鎌倉市観光基本計画の策定(96.4) 基本理念「住んでよかった、訪れてよかったまちを、市民、観光客と行政がともに育てていく」。1996~2005年度までの10年間計画。
2000-	○第2期鎌倉市観光基本計画の策定(07.2) 基本理念「住んでよかった、訪れてよかったと思えるまちを、市民、観光客と行政がともに育てていく」。2006~2015年度までの10年間計画。目標:「観光客の満足度」と「市民の満足度(納得度)」を高める。目標値:観光客の意識満足度80.0%、市民の意識90.0%。観光客数1,840万人、現状値以上。
2010-	○「武家の古都・鎌倉」の推薦書が国からユネスコ世界遺産センターへ提出(12.1) ○第2期観光基本計画中間改定(12.3) インバウンド観光への対応、世界遺産登録を見据えての対応。 ○ユネスコ諮問機関の国際記念物遺跡会議(イコモス)より「不記載」の勧告(13.4)。推薦を取り下げ(13.6)。 ○鎌倉市歴史的風致維持向上計画(歴史まちづくり法)の認定(16.1) ○日本遺産の認定申請(16.2) ○第3期鎌倉市観光基本計画策定(16.3) 基本理念「住んでよかった、訪れてよかったと思える成熟した観光都市を目指す」。2016~2025年度までの10年間計画。目標:延べ観光客数2,196万人の現状維持、観光消費額1,036億円、外国人旅行者訪問数は目標なし。 ○日本遺産認定「いざ、鎌倉」~歴史と文化が描くモザイク画のまちへ~(16.4) 構成文化財56件

()は西暦の策定年月 (鎌倉市資料から筆者作成)

表2 鎌倉市の観光の特徴 第3期鎌倉市観光基本計画から

特徴	内 容
特徴1	人口・市域の面積に対して多くの観光客が訪れていること
特徴2	訪れる観光客が、季節的・時間的・地域的に見て偏りがあること
特徴3	首都圏からの日帰り観光地としての性格が強いこと
特徴4	あらゆる世代が、多様な目的を持って訪れていること
特徴5	繰り返し訪れる観光客が多く、再来訪意識が高いこと
特徴6	国際的に知られる観光都市であること
特徴7	全国的に知名度が高く、良好なイメージを持たれていること

3. 鎌倉市の観光政策の課題

3-1 鎌倉市観光基本計画進行管理委員会からの課題

第3期計画の策定時に計画の進捗状況を評価・管理する委員会において、第2期計画を振り返った「進行管理状況評価報告書(平成27年版)」で、今後に向けての以下の課題・提言が報告された。

[課題・提言]：①市民の理解を深める取組の充実、②鎌倉ならではの観光の推進、③情報発信の充実、④観光地としての施設の整備、⑤観光客の安全安心、⑥訪日観光客の満足度向上、⑦地域が一体となった観光振興の推進、⑧多様な主体による実行力のある新たな組織の立ち上げ

3-2 計画の目標達成の指標の観点から

第3期計画では、市民生活の安定と観光振興が両立した成熟した観光都市の目標から、「質」の高い観光の実現をめざすため、計画の目標達成状況を図る重要な指標に「市民の満足度」と「観光客の満足度」を位置付けている。

(1)「市民満足度」の指標については、平成27年度市民意識調査観光分野調査票集計(調査対象2,000人、回答者数718人、回収率35.9%)で、メリット、デメリットを踏まえた結果では、「大変満足」「満足」「普通」の合計で71.6%となった。

観光都市の鎌倉に住んでのメリットの設問では、「観光資源が身近にあること」が39.1%、デメリット要素は、「交通渋滞や公共交通機関の混雑などの交通問題」が37.8%を示し、観光関連の対策として積極的に取り組むべきことの「交通基盤の整備、歩行者の安全対策」とともに一番高くなっている。

(2)「観光客の満足度」については、「鎌倉市の観光事情(平成28年度版)」で、来訪者アンケートと市のWEBアンケートの合計(571件)の満足度を見ると、第2期計画の策定時の2005年度59.2%から2015年度は20.3ポイント増加の79.5%となっている。

しかし、項目別では「市内の交通機関、移動のしやすさ」の設問では満足度が減少し、「やや不満」「たいへん不満」の回答の割合が、2007年度14.7%から7.8ポイント増えて22.5%と顕著になっていることが指摘されている。

これらの調査結果から、鎌倉市の観光まちづくりにおいては「交通問題」が住民と観光客の一番の課題となっていることがわかる。市の都市構造からもさらなる指標の悪化が懸念される。

また、こうした課題とともに、前述の市の委員会からの報告にもある「地域が一体となった観光振興の推進のための実行力のある組織のあり方」も関連した課題と言える。

4. 課題解決に向けた取り組み

上述した鎌倉市の観光まちづくりの課題である「交通問題」の解決に向けて現在二つの取り組みが行われている。

4-1 交通政策の取り組み

市は、市民と商工業者、交通事業者、関係行政機関の職員、学識経験者が協働して地区交通計画の策定などを進める鎌倉市交通計画検討委員会を設置し、パークアンドライドなどの交通需要マネジメント施策を推進している。抜本的な解決に至っていないため、2015年10月から交通渋滞の解消策の一つであるロードプライシング(道路利用者から課金する自動車利用の抑制策)の検討を行っている。

また、2017年12月には国による「鎌倉エリア観光渋滞対策実験協議会」が設置され、今後、実証実験が行われロードプライシングの検討課題への対応が期待されている。

いずれも住民への検討内容の情報提供など、地域の理解と合意形成が課題となっている。

4-2 観光政策の取り組み

観光客による駅前や公共交通機関の混雑も沿線住民の移動の負担となっている現状がある。観光基本計画の施策として、これまで「歩く観光」の推進による自家用車の交通環境への緩和と、「分散型観光」の推進による観光客の地域の分散化、早朝・夜間への時間の分散化、季節的な分散化で、混雑緩和の取り組みを実施しているが、これまで取り組みの成果などの評価は行われておらず交通政策としての具体的な連携もない。

2018年3月に観光関係団体、学識経験者などで構成される鎌倉市観光基本計画推進委員会を設置し、計画の推進の評価や効果的な施策の提案等を行うこととしている。

5. おわりに

鎌倉市の観光振興の課題解決を担う、「交通」「観光」の市の附属機関である推進組織での成果は途中であり、観光政策において交通問題の現状把握ができていない状況である。今後、地域が一体となった観光振興の推進については、二つの視点からの取り組みが、同じテーブルで住民と行政、事業者が協力して、限られた地域の課題を地域で解決をする「協働」の取り組みが必要であると考えられる。

今回の調査から、鎌倉市の観光政策は観光の担い手の主体が観光基本計画の目標指標を理解し、協働による課題解決に取り組む推進組織が必要であると考えられる。同時に観光政策を持続可能な地方創生の戦略として捉え、仕組みづくりやルールづくり、人材づくりの必要性もある。

【参考・引用文献】

- 1) 鎌倉市「第3期鎌倉市観光基本計画」(2016～2025年度) 2016.3
- 2) 鎌倉市「平成27年度市民意識調査」 2016.7
- 3) 鎌倉市「鎌倉市の観光事情(平成28年度版)」 2017.2
- 4) 鎌倉市「観光基本計画策定調査」 2015.2
- 5) 鎌倉市ホームページ

*法政大学大学院 政策創造研究科 大学院生 修士課程

**法政大学大学院 政策創造研究科 教授

博士(工学), 博士(政策学)

* Graduate Student, Hosei Graduate School of Regional Policy Design

** Hosei Graduate School of Regional Policy Design, Prof., Dr. Eng., Ph.D.